

創立148周年

学校だより



は
南 風 の 子

中種子町立
南界小学校

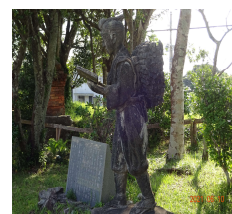
令和3年6月20日

「家庭学習の習慣化」で学力はさらに向上する

校長 安満 浩之

5月に全国学力・学習状況調査が実施されましたが、これまでの結果から、学力と学習そして生活習慣は大いに関連性があることがわかってきました。小学校の学習は、将来児童が社会人として自立するための基礎となるものです。そして、中学校では高校入試等将来の進路に大きく関わる3年間となるのです。

ところが、児童の中には家庭で学習する習慣が身につけていなくて中学校で苦労したという話も聞きます。そこで、中種子中学校の山下信久校長先生に「小学校段階から、家庭学習を身に付けていた方がいい点」についてお聞きしましたので、掲載いたします。



校庭の二宮金次郎像
(勤勉の象徴)

中種子中学校の家庭学習の時間は「20分×〇学年+60分」です。すると、中学1年生は80分となります。これは、家庭学習の「最低時間」であり、目標時間ではありません。

それは、なぜなのか・・・？

中学生になると、教科書のページ・文字数も増え、教える内容も広く、深くなります。例えば社会科で比べると、江戸時代については、小学校に比べて約6.7倍の学習を行います。でも、授業の時間数は3時間くらいしか変わりません。そうすると、その日の復習や、翌日の予習がとても大切になります。

時間を有効に使うことから考えると、例えば、スポーツ少年団に入っている人が、小学校の帰りの会が終わって、少年団活動が始まるまでの時間に宿題を終わらせることは、いいことだと思いますが、小学校段階で、家に帰ってから、楽しいテレビやゲームをやりたい時間をコントロールして勉強機に向かう習慣を身につけておくことは、とても大切なことです。

中種子中学校では、現在87%の生徒が部活動をしています。夏の頃になると、夕方6時45分下校になります。ということは、それから家に帰って、夜ご飯を食べて、お風呂に入って、好きなことをして、そして、勉強となります。そういう意味では、小学校のときから家で勉強する習慣が身に付いていた方が、スムーズに中学校生活に慣れることができます。

中学校には、7つの小学校から集まる多くの友達に囲まれて、ワクワク、ドキドキ楽しいことが多いです。今のうちから、中学校に慣れる準備をしておきましょう。

エビングハウスの忘却曲線によると、人の脳は1度勉強したことを1時間後に56%忘れ、1日後には74%忘れるそうです。だから、繰り返し繰り返し学習することで、定着していきます。児童などで放課後学習して、また家でも復習そして明日の予習をする。これが大事です。御家庭でもどんな勉強ができるかお子さんとよく話し合っ家庭学習の時間の確保をお願いします。